

事業計画の内容

コロナで亡くなった方とご家族がアクリル越しで対面できる時間と場所の提供

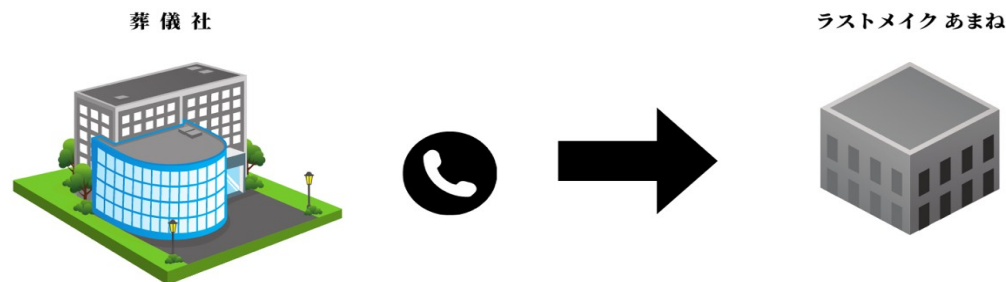
当社概要

当社は、葬儀業の中でも納棺に特化したサービスを行っている。納棺とは、亡くなられた方の葬儀に際し、化粧などを施したり、着衣によって身体や顔を整え、棺に納めることである。納棺という儀式を通して、遺族が故人と最後に過ごす時間を整えグリーフケアを行う。又、死後の体や顔の変化を遅らせるために必要な処置である。

当社は2020年8月に納棺に関する専門業者として創業した。

葬儀は景況に左右される事なく、常に一定の需要は存在するが、葬儀に関連する各種専門サービスを提供する業者は葬儀の案件発生後に葬儀社から下請けとして受注する産業構造となっている。

〈 納棺の依頼が来るまで 〉



電話やFAXで依頼があり、
葬儀社、又はご自宅へ伺い納棺します。

代表の経歴と理念

葬儀関連の大手事業者において、約5年の勤務経験を経た後に、納棺を行う納棺師として開業した。勤務時には、納棺や湯灌（ゆかん：納棺の手順に加え、故人の全身の身体を洗い清めること）まで含めた幅広い実戦経験を積んできている。理念として、葬儀、納棺の儀式の主体は遺族であるという考えのもと、大手事業者におけるシステムチックなサービスではなく、故人を通じてより遺族の気持ちに寄り添ったサービス提供したいとの思いから、当社を創業した。

施設への想い

きっかけはコロナウイルスによる死者の増加と葬儀の内容である。コロナウイルス以外が原因で亡くなり、葬儀を行う場合、亡くなった場所（自宅、病院、介護施設など）へ遺族より連絡があった葬儀社がお迎えに行き、葬儀社へお連れし、遺族と葬儀の日程や内容を打ち合わせ、通夜や葬儀を執り行う。葬儀後、火葬場へという流れが一般的である。コロナが原因で亡くなった場合、亡くなった病院に火葬の時間まで安置し、時間が来たら葬儀社の下請けの搬送業者がお迎えに行き火葬場までお連れし火葬場の時間外に火葬。お骨は火葬場の限られたスタッフで拾い、遺族のもとには骨壺に入った状態で戻ってくる。

〈従来の流れ〉



〈コロナ患者さんの流れ〉



テレビでも大きく報道され目にした方がいらっしゃると思うが、個人的に印象深いのは志村けんさんの報道だった。
コロナの陽性反応が出てから直接対面もできず、お骨だけが手元に戻ってきた。
その映像を見て、本来、悲しみを感じる時にそれすらできないこの葬儀の現状があまりにも哀しいと感じ、何かできることはないかと考え思いついたのが
このような施設があればどうかということだった。

〈志村けんさんと岡江久美子さんの報道〉



市場の動向(死亡者数の推移)

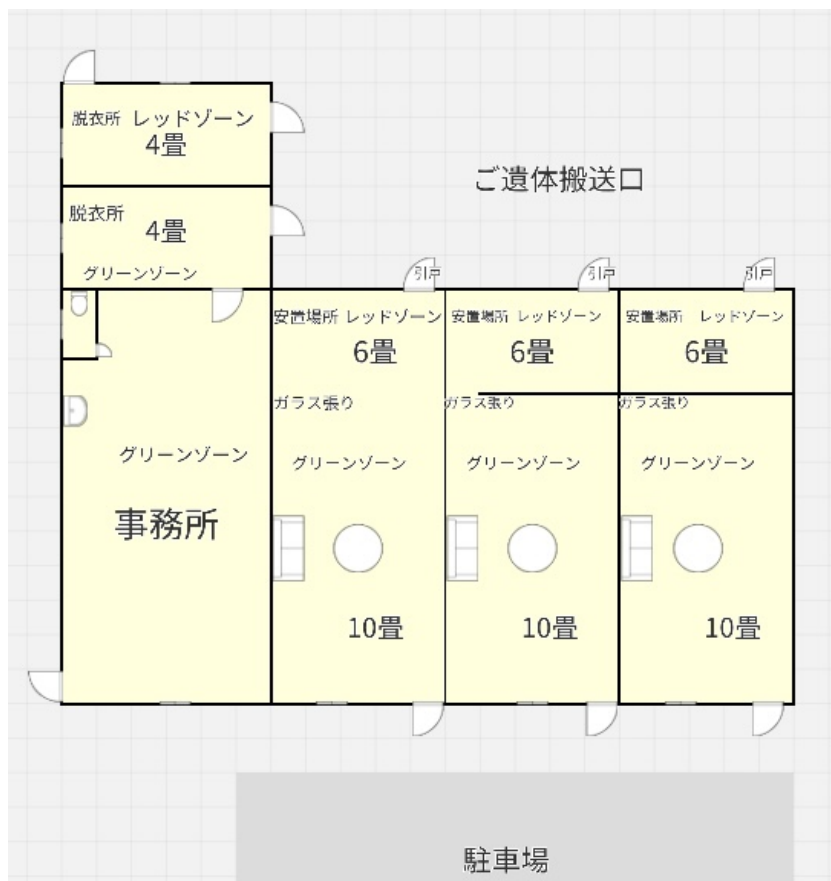
コロナ 推移

| 北九州市 | | 感染者数 | 感染者数 累計 | 死亡者数 | 死亡者数 累計 |
|-------|-----|------|---------|------|---------|
| 令和2年 | 3月 | 10 | 0 | 0 | 0 |
| | 4月 | 65 | 75 | 1 | 1 |
| | 5月 | 93 | 173 | 3 | 4 |
| | 6月 | 72 | 245 | 2 | 6 |
| | 7月 | 108 | 353 | 1 | 7 |
| | 8月 | 285 | 638 | 9 | 16 |
| | 9月 | 24 | 662 | 4 | 20 |
| | 10月 | 18 | 680 | 0 | 20 |
| | 11月 | 58 | 738 | 0 | 20 |
| | 12月 | 549 | 1287 | 3 | 23 |
| 令和3年 | 1月 | 1025 | 2312 | 8 | 31 |
| | 2月 | 300 | 2612 | 14 | 45 |
| 3月23日 | 現在 | 212 | 2824 | 10 | 55 |

事業の概要

施設の間取りは下図を予定している。搬入口は一ヶ所とし、ご遺族の入り口は別に設ける。安置場所とご遺族の部屋間にアクリル板を設置し、対面可能且つ 感染対策も行う。

感染対策として区分けをしっかりと行い、汚染区域（レッドゾーン）と清潔区域（グリーンゾーン）を明確に区別する。防護服を着る部屋と脱ぐ部屋も別々に設置。



※完成予想図

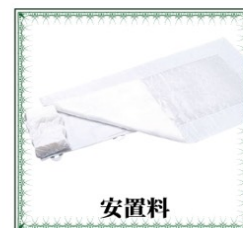
サービス内容

ご遺族が選べるプランを2つ用意

プラン1

必要最低限の物品（棺、骨壺、骨箱、お位牌、霊柩車、ドライアイス、線香、ローソク類、火葬手続き、安置料、遺影写真（小））

プラン①

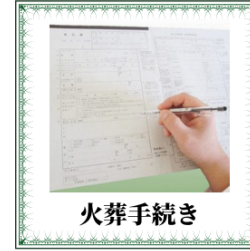
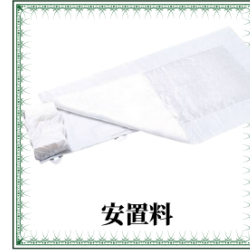


プラン2

プラン1の内容の中で選べるものを用意

選べる物品の種類（棺、骨壺、骨箱） 上記プラン1にお顔周りを整え、遺影写真（大）を追加する

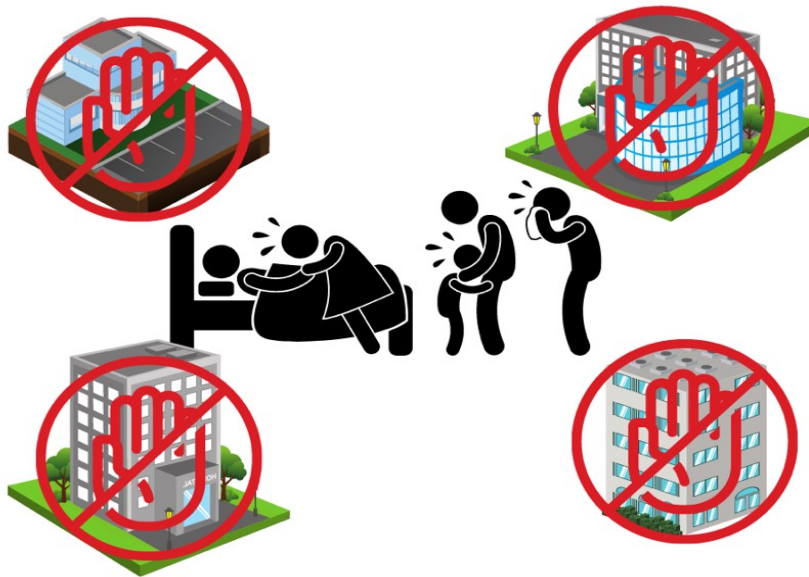
プラン②



市場の動向(葬儀社の現状)

北九州市内のどの葬儀社もコロナで亡くなった方の通夜や葬儀は勿論、会館への搬送、安置すら行っていない。(病院から火葬場への搬送のみ受け入れ)
その理由として、既存の建造物では感染対策が不完全であることや、従業員への感染や風評被害による業績悪化の懸念があげられる。

〈受け入れ拒否 風評被害〉



コロナに対する事実無根の噂話



葬儀社へのラクガキ



上記の理由で行えない葬儀社に対し、コロナで大切な人を亡くしたご遺族は「一目でもよから最後に顔が見たかった」「葬儀もなく骨だけが戻ってきても亡くなった実感が無く、死を受け入れられない」という声が多い。下記がご家族のリアルな声です。



しかし、入院から6日で母親は亡くなった。家族の誰も立ち会えないまま、母親は火葬された

(病院から)電話がかかってきて、4月の16日に。「きょうは呼吸が荒くなっているんで、大変かと思えますけども」って。「分かりました」って言って。

そのあとかかってきたときには「もうそろそろになると思います」。そのときにはたぶんもうだめだったんですよ、きっと。3回目に電話が来たときに、「(死亡時刻は)何時何分でした」というお話で、「はい分かりました」と言って、だめだったねという話で。

葬儀社からは「ちょっとケースがケースなので、日にちがどれだけかかるか分かりません」と言われてたんですけど、「焼き場がとれましたので20日に焼きます、20日の3時です。ちょっと時間遅いんですけど、やっぱりコロナの関係で早くは焼けない。いちばん最後(に火葬する)のパターンなんです」と言われて。そのあと、遺骨だけ帰って来たという。

私たち濃厚接触者なので、家自体もそういうことだから、入れないじゃないですか、向こう(葬儀社の人)も。玄関先に(遺骨を)置いてもらったんです。



遺骨は玄関に

病院に運ばれたときにはすでに肺炎の症状が出ていたため、母親は即入院となった。数日後、陽性と確認。家族は全員、濃厚接触者となり、母親を見舞うこともできなくなった

自分も陽性かもしれないじゃないですか。出て歩ける状態ではないし。私はもう、母がかかった時点で、私もだ、私のほうが先(に感染していた)かなと思って、絶対そうだなって思ってたので。罪悪感。このコロナを持ち込まなければ元気だったんだよねって。私たちがかかんなかったら(家に)入れたよねっていう、ここに生きてたよねって思います。

だからと言って、私も一緒に検査してくださいって、私はそんなに熱がないし言えないよなあと思いがら。「37度5分以上、4日間」、それが出ないし。

保健所の方と話しても「発熱がないんですたら大丈夫ですね」という言い方なので、やっぱりそれしかないんだなと思って。

自分のなかでその時に、母が戻って来ないっていう、なんだろうな、覚悟みたいなのはその時はないと思います。死ぬとは思っていない。



今も泣けない

みとることもできなかった母親の死を、女性は淡々と語っているように見えた

こないだ一晩だけ、ちょっと5分ぐらい、お風呂場で泣きましたけど。それは「私たちがかかんなかったら、いられたよね、ここに」という思いで。

「ああ、やっと泣けたなあ」と思ったんですけど。何も見てないじゃないですか。(病院に)行ったことしか見てないでしょ?家から救急車に乗ったことしか見てないじゃないですか。苦しんでるとも見てないし、弱っていった姿も見てないし、何もなかったじゃないですか。

だから、たぶん、わかんないんだと思う。お通夜やって、お葬式をやって、ああいうのを全部やって初めて、亡くなったっていうのを受け入れられるんだって。

まだなんとなく泣けないところがあるのはやっぱりどっかで違ってるのか?心の整理がつかない。死ぬならコロナじゃない方がよかったよねっていう後悔。歳だから、ある程度、覚悟は私も姉もあるんです。死ぬことに関しては覚悟はできているんですけど、コロナで死ぬことはなかったかなっていうのは…。うまく答えられないです。ごめんなさい。

※NHK NEWS WEBより引用

上記の記事からもわかるようように、グリーフケアはとても大切である。
ではグリーフケアとは具体的にどのようなものなのか。
下記の資料をご覧ください。

〈グリーフケアについて〉

・グリーフ (Grief)
悲嘆を意味します。

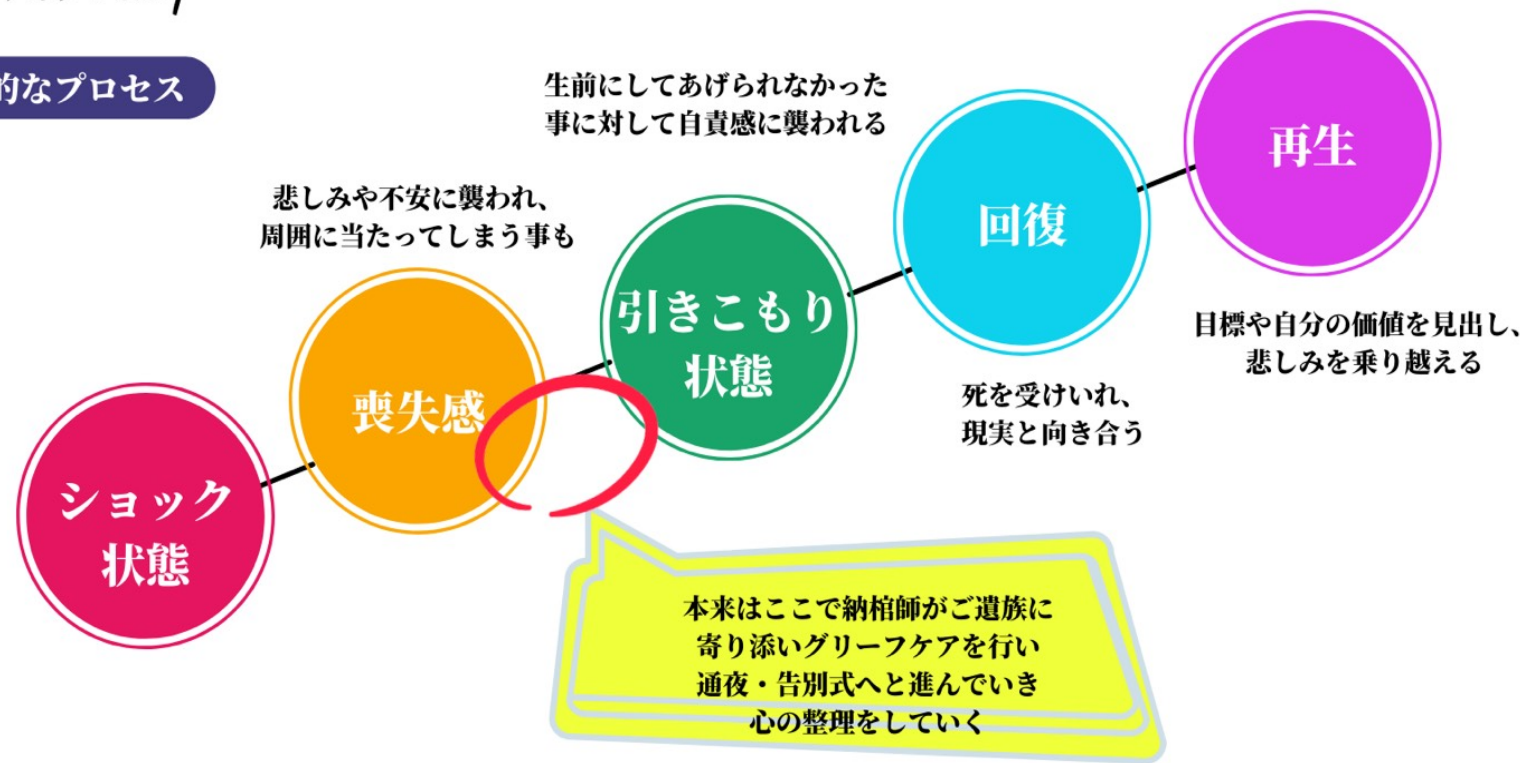
・グリーフケア

遺族に寄り添って、
正常な悲しみと立ち直りのプロセスを歩み、
再び日常生活に適応できるように援助する
ことです。



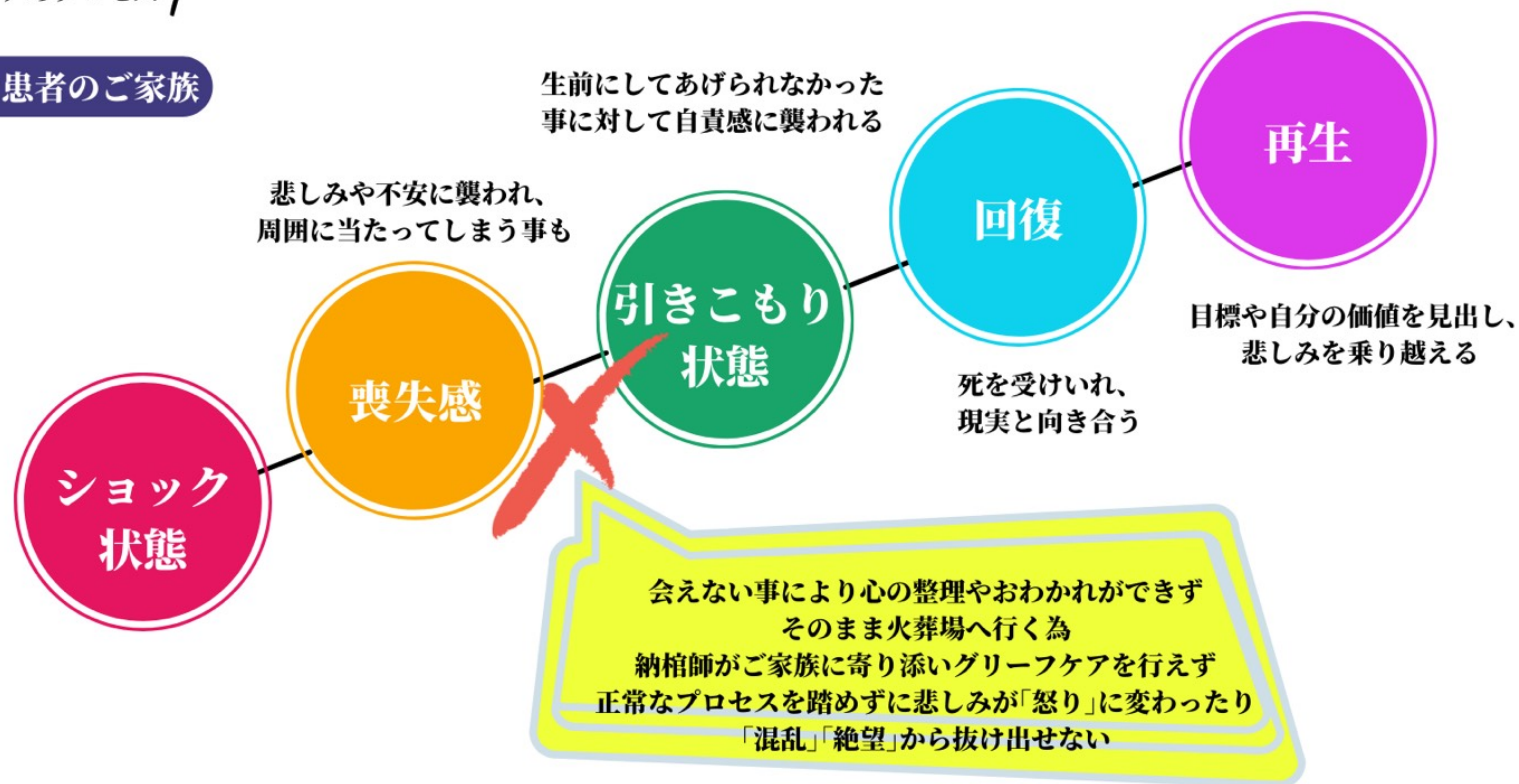
〈 グリーフケアのプロセス 〉

・一般的なプロセス



〈 グリーフケアのプロセス 〉

・ コロナ患者のご家族



〈グリーフの状態では生じやすい反応は大きく3つ〉



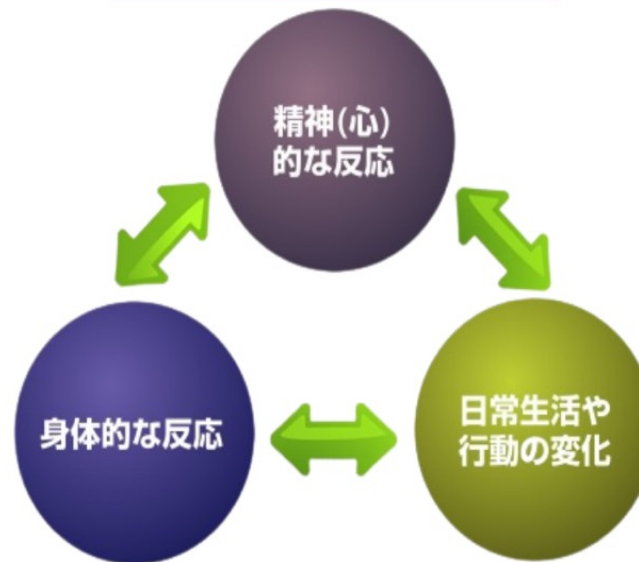
大きな喪失感と、死を乗り越えようとする二つの間で揺れ動き、精神的にも身体的にも不安定で違和感のある状態を経験することになるのです。

身体的な反応

睡眠障害、食欲障害、体力の低下、健康感の低下、疲労感、頭痛、肩こり、めまい、動悸、胃腸不調、便秘、下痢、血圧の上昇、白髪の急増を感じる、自律神経失調症、体重減少、免疫機能低下などの身体の違和感、疲労感や不調を覚える。

心(精神)的な反応

長期にわたる、「思慕」の情を核に、感情の麻痺、怒り、恐怖に似た不安を感じる、孤独、寂しさ、やるせなさ、罪悪感、自責感、無力感などが症状として表れます。



日常生活や行動の変化

ぼんやりする、涙があふれてくる、多くの「なぜ」「どうしよう」の答えを求められ、死別をきっかけとした反応性の「うつ」により引きこもる、落ち着きがなくなる、より動き回って仕事をしようとする、故人の所有物、ゆかりのものは一時回避したい思いにとらわれますが、時が経つにつれ、いとおむようになるなど

〈 グリーフケアの必要性 〉

グリーフの状態は決して『健康状態』とは言えません。



予防医学の観点から、グリーフケアは必要
と考えることができます。

うまく悲嘆のプロセスを歩むことができなければ、重篤な健康
障害等を引き起こすかもしれないからです。

健康の定義からわかるように、グリーフの状態は決して「健
康」ではありません。また、大切な人の死は、重篤な健康障害
や自殺などを引き起こす原因になるといわれています。



※健康の定義を「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」としています。

(参照：日本WHO協会 [健康の定義について](#))

〈 グリーフケア~遺族への4つの効果~ 〉

「大切な人の死」という、大きな悲しみを和らげることができる

悲嘆のプロセスの段階を踏むことができる

安心感を得ることにつながる

死別の影響による身体的・精神的な不調を予防することができる



上記の様に、大切な方を急に亡くし大変な悲しみの中にも関わらず、葬儀社から受け入れを拒否され悲しみの二次被害が起きている。本来であれば亡くなってからご納棺や通夜葬儀を通して正しく悲しみのプロセスを踏みご家族のグリーフケアをする事ができていたがコロナ患者のご家族はこのプロセスが正しく踏めず、死を受け入れられない、後悔が残りご自分を責める等、悲しみから立ち直れない方が多くいるのが現状であり、グリーフケアの専門家も危惧している。

〈納棺風景〉



当社の強み

- ・感染対策を踏まえた間取り、構造
- ・創立が昨年8月と間もない為、風評被害も他の葬儀社に比べて経営に影響がない
- ・遺体感染管理士の資格保持者がいる
- ・訪問看護から依頼があり、葬祭扶助制度を使用し生活保護受給者の直葬を行った経験がある。
- ・この事業に賛同して助力してくれる葬儀社も多数いる
- ・火葬後のアフターフォロー（遺品整理、散骨、お墓に関する事など）も承れる

〈弊社の強み〉



・遺体感染管理士の資格保有者がいる

・遺品整理



・散骨



・合同墓
・墓じまい

・火葬後のアフターフォロー

